

[No. 4] 熱伝導率・熱貫流率に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱材に用いられるグラスウールの熱伝導率は、一般に、板ガラスの $\frac{1}{10}$ 以下、アルミニウムの $\frac{1}{1,000}$ 以下である。
熱の通けやすさ
2. 同種の発泡系の断熱材で空隙率が同じ場合の熱伝導率は、一般に、断熱材内部の気泡寸法が大きいものほど大きくなる。
通けやすさ
3. 屋外の風速が大きくなると、一般に、外壁の熱貫流率は大きくなる。
外 断熱 R₁ + R₂ + R₃ / δ
4. 外壁の熱貫流率は、外壁を構成する材料の種類や材厚が同じ条件の場合、一般に、躯体の屋外側で断熱するよりも、室内側で断熱するほうが大きくなる。
変わらない



1 /

[No. 4] 熱伝導率・熱貫流率に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱材に用いられるグラスウールの熱伝導率は、一般に、板ガラスの $\frac{1}{10}$ 以下、アルミニウムの $\frac{1}{1,000}$ 以下である。
2. 同種の発泡系の断熱材で空隙率が同じ場合の熱伝導率は、一般に、断熱材内部の気泡寸法が大きいものほど大きくなる。
伝導率
3. 屋外の風速が大きくなると、一般に、外壁の熱貫流率は大きくなる。
伝導率
4. 外壁の熱貫流率は、外壁を構成する材料の種類や材厚が同じ条件の場合、一般に、躯体の屋外側で断熱するよりも、室内側で断熱するほうが大きくなる。
断熱といっても同じ

[No. 4] 熱伝導率・熱貫流率に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱材に用いられるグラスウールの熱伝導率は、一般に、板ガラスの $\frac{1}{10}$ 以下、アルミニウムの $\frac{1}{1,000}$ 以下である。
2. 同種の発泡系の断熱材で空隙率が同じ場合の熱伝導率は、一般に、断熱材内部の気泡寸法が大きいものほど大きくなる。
伝わりやすさ
3. 屋外の風速が大きくなると、一般に、外壁の熱貫流率は大きくなる。
伝わりやすさ
4. 外壁の熱貫流率は、外壁を構成する材料の種類や材厚が同じ条件の場合、一般に、躯体の屋外側で断熱するよりも、室内側で断熱するほうが大きくなる。
かわらないはず